

# Echocardiographic Assessment of the Effects of Mitral Valve Repair on Mitral Valve Geometry in Rheumatic Mitral Stenosis

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2011-01-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 蒔苗, 永 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001165">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001165</a>

順天堂大学 博士(医学)

氏名 蒔苗 永

論文題目 Echocardiographic Assessment of the Effects of Mitral Valve Repair on Mitral Valve Geometry in Rheumatic Mitral Stenosis

(リウマチ性僧帽弁狭窄症における僧帽弁形成術の僧帽弁形状に対する効果に関する心エコー図での評価)

#### 論文内容の要旨

僧帽弁狭窄症の外科治療には人工弁を用いた僧帽弁置換術が行われることが一般的である。我々はリウマチ性僧帽弁狭窄症の 7 症例に対して僧帽弁形成術を施行し、手術前後の心臓超音波検査で評価した僧帽弁形態を考察した。

術中操作にはリングを用いた弁輪形成、交連切開、石灰化の除去、弁下組織の切除、乳頭筋の分割、腱索再建、slicing、弁葉の augmentation が含まれ、それらを術中所見をもとに複数組み合わせで施行した。

心臓超音波検査では僧帽弁の厚さ、開放角、閉鎖角、pressure half-timeなどを計測するとともに、僧帽弁の肥厚および石灰化の進展と可動性を前尖・後尖それぞれにスコア化して評価した。僧帽弁形成術によって僧帽弁前尖および後尖の厚さ、開放角、後尖の閉鎖角、前尖の石灰化、および pressure half-time が有意に改善しており、僧帽弁狭窄症が僧帽弁形成術によって改善されていることが示された。transmitral peak velocity および mean pressure gradient は有意差が認められなかったが、手術後の値に改善傾向がみられた。

pressure half-time が僧帽弁狭窄症に対する僧帽弁形成術の効果をよく反映する可能性が示唆された。